

# 市町村母子保健事業の栄養担当者の視点による母子の心配事の特徴： 妊娠期・乳児期・幼児期に関する栄養担当者の自由記述の分析

タカハシ ノゾミ ハライカワ マユ ニイミ シホ エトウ クミ  
高橋 希\* 誠川 摩有<sup>2\*</sup> 新美 志帆<sup>3\*</sup> 衛藤 久美<sup>4\*</sup>  
イシカワ カトウ ノリヨ ヨコヤマ テツジ ヤマザキ ヨシヒサ  
石川みどり<sup>5\*</sup> 加藤 則子<sup>5\*</sup> 横山 徹爾<sup>5\*</sup> 山崎 嘉久<sup>3\*</sup>

**目的** 市町村母子保健事業の栄養担当者の視点による，妊娠期・乳児期・幼児期の母子に多い心配事の特徴を明らかにする。

**方法** 全国1,742市区町村の母子保健事業の栄養担当者を対象とし，平成25年1月～3月にインターネットによる調査を実施した。栄養担当者が心配事と捉えた母子の心配事について，妊娠期・乳児期・幼児期ごとに自由記述による回答を，妊娠期630，乳児期延べ889幼児期延べ1,034市区町村から得た。分析は，ウェブ上のフォームに入力されたテキストを，分析単位ごとにMicrosoft Excel®のセルに一つずつ入力し，一つの心配事のケースに複数の意味のテキストが入っている場合は，それらを分割し別々のセルに入力した。次に，健康日本21（第一次）の栄養・食生活分野の目標設定の枠組みを参考とした4つのカテゴリ（「QOL」，「栄養状態・栄養素（食物）摂取」，「知識・態度・行動」，「環境」）に分類し，分類できないテキストは「その他」に分類した。分類後，各カテゴリ内において，意味の類似するテキストをまとめて下位サブカテゴリを生成し，類似する下位サブカテゴリをまとめ，上位サブカテゴリとした。なお分析は，妊娠期・乳児期・幼児期ごとに行い，すべての作業は妥当性を高めるため，複数の専門職により行った。

**結果** 上位サブカテゴリを【 】, 下位サブカテゴリを< >, テキスト数を( )で示す。各時期でテキスト数が多かったサブカテゴリは，妊娠期では【体重増加量】における<体重増加過多>(170)，【健康状態】における<貧血への対応・予防>(148)，<つわりへの対応>(105)，乳児期では【離乳食の進め方】における<進め方が分からない>(297)，【離乳食の食べ方】における<食べない>(186)，幼児期では【食べ方】における<偏食・好き嫌い>(419)，<小食>(212)，<むら食い>(178)，<遊び食べ>(127)，<よく噛まない>(154)，【食事・間食のリズム】における<間食の与え方>(147)であった。

**結論** 栄養担当者の視点による各時期における心配事の内容および特徴として，妊娠期では母体の変化に伴う【健康状態および体重増加量】，乳児期では個々に応じた食生活支援が求められる【離乳食の進め方と食べ方】，幼児期では子どもの発育・発達により個人差が生じる【食べ方】および家庭により対応が異なる<間食の与え方>が把握された。

**Key words** : 市町村，母子保健，食生活支援，心配事

日本公衆衛生雑誌 2016; 63(9): 569-577. doi:10.11236/jph.63.9\_569

## I 緒 言

平成26年（2014年），母子保健の主要な取り組み

\* 千葉県富浦学園

2\* 聖徳大学

3\* あいち小児保健医療総合センター

4\* 女子栄養大学

5\* 国立保健医療科学院

責任著者連絡先：〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院 石川みどり

を提示する「健やか親子21（第2次）」の検討会報告書<sup>1)</sup>が公表され，基盤課題の一つに，妊娠，出産，産後における切れ目ない支援が提示された<sup>2)</sup>。現在母子保健対策は，妊娠期・乳児期・幼児期それぞれの過程で，医療機関等による妊産婦健康診査，市区町村による母子健康手帳の配布や母親（両親）学級の実施等，さまざまな機関および職種が関わり行われている。公衆衛生の実務や活動において，多くの機関および職種が母子保健事業に関わることか

ら、多機関・多職種の連携による妊娠・出産・産後における切れ目ない支援が課題の一つとなっている。

一方栄養学の視点から、妊娠期・乳児期・幼児期は、母親自身の健康維持・増進、胎児および乳幼児の健全な発育のために重要な時期である。また妊娠、出産、授乳による健康状態および生活リズムの変化、また乳幼児の成長に伴うライフスタイルの変化から、この期間における食生活の変化は著しく、食事に関連した問題や不安が生じやすい<sup>3~5)</sup>。よって、公衆衛生活動における母子保健事業において切れ目なく必要な食生活支援を提供するために、母子保健事業に関わる機関や職種が、妊娠期・乳児期・幼児期の各時期における母子の心配事の特徴を把握する必要がある。

しかし、妊娠期・乳児期・幼児期を通じて、食生活支援に関わる心配事の特徴を明らかにした報告は少ない。そこで本研究では、市町村の母子保健事業の場で、栄養担当者が捉えた母子の心配事について調査し、妊娠期・乳児期・幼児期における心配事の特徴を明らかにすることを目的とした。

## II 研究方法

### 1. 対象および調査方法

全国1,742市区町村（平成24年4月1日現在）の母子保健事業の栄養担当者（1市区町村1名）を対象とし、平成25年1月～3月にインターネットによる調査を実施した。市区町村に対する調査協力の依頼は、厚生労働省から都道府県および政令市の母子保健事業における栄養担当者あてに、調査協力に関する依頼文書が送付され、都道府県の主管課から各市町村に周知された。

調査協力の依頼に関する通知文には、本研究の趣旨、収集したデータは発表や論文に使用されるが、市区町村名は特定されないことの説明、質問等に適宜対応できるように調査責任者の連絡先および回答ウェブ画面のリンクを明記した。調査は市区町村名の記名回答として調査票を回収した（回収数1,043市区町村、回収率59.9%）。

なお本調査は、あいち小児保健医療総合センター研究倫理委員会の承認（2013年1月17日、番号H25011701）を得て実施している。

### 2. 調査項目

調査票は、ウェブ上に3つのフォームを設けた。「妊娠期・乳幼児期の栄養指導の実施体制に関する質問票」（Form1）、「妊娠期の栄養指導に関する質問票」（Form2）、「乳幼児期や乳幼児健診時の栄養指導に関する質問票」（Form3）である。それぞれのフォームのタブをクリックすると、各フォームの

質問項目が出現し、ウェブ画面に直接入力する形式とした。Form1では、調査回答者の属性、母子保健事業の栄養担当者の配置状況、栄養相談業務に活用する教材について尋ね、Form2では妊娠期、Form3では乳幼児期の栄養指導の実施状況ならびに内容を選択式により、また栄養指導における心配事については自由記述により尋ねた。各Formの回答数は、Form1は1,026市区町村、Form2は981市区町村、Form3は980市区町村であった。自由記述の調査項目は、「あなたの関わる妊娠期の方（乳児期又は幼児期の子ども）には、どのような心配事が多いですか。また、そのようなケースについてどのようにフォローしていますか。多いケースを1-3つ程度教えてください」とした。この質問における心配事とは、栄養担当者の視点から見た、母子に関する心配事としている。また各質問票では、平成23年度の実績について回答を求め、幼児健康診査については、1.6～5歳を対象とした健康診査について尋ねた。なお本研究では、心配事の特徴を把握することに焦点をあてたため、フォローに関する記述は、分析対象からはずした。

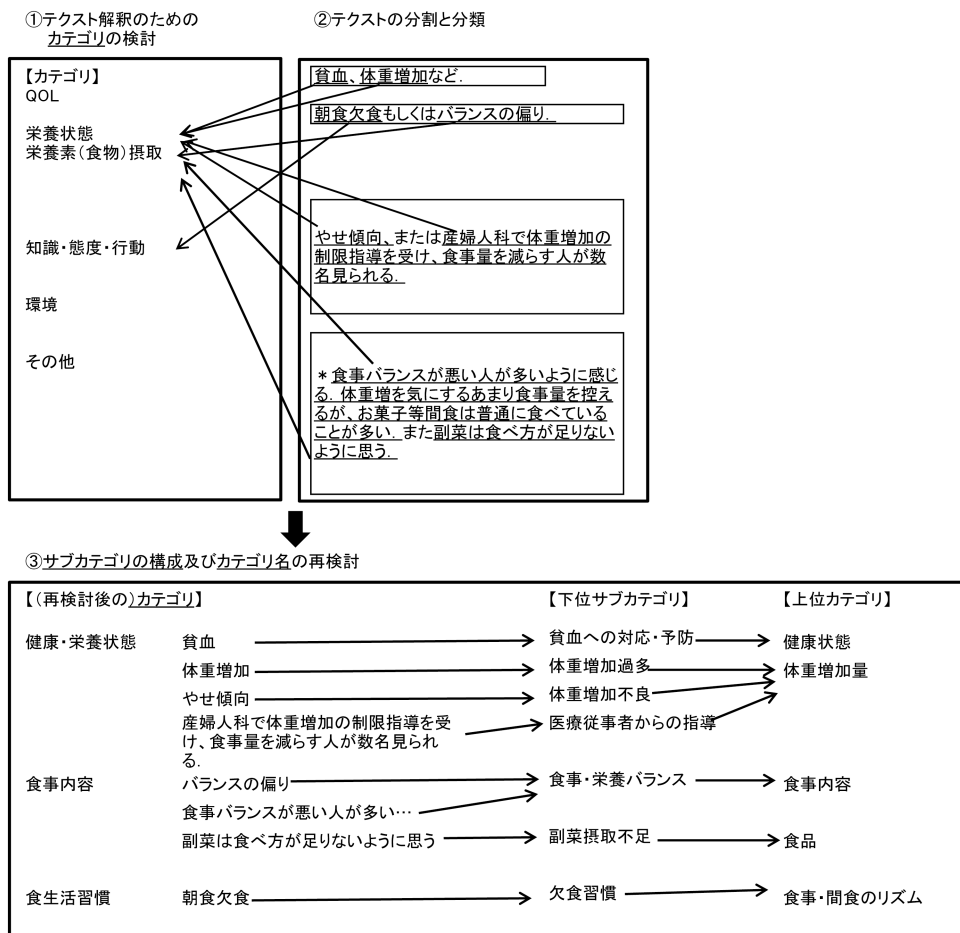
### 3. 分析方法

分析は、インタビュー等で得られた記述データ（以下テキスト）を解釈するために、既存の理論的なモデルに由来するカテゴリを使用する「質的内容分析の手法」を応用した<sup>6)</sup>。この分析の特徴は、既存のモデルからカテゴリを作成し、カテゴリの意味に従いテキストを振り分け、そのカテゴリ内で意味が類似するテキストをまとめる手順で分析を行う。なおカテゴリは、テキストに基づいて適宜変更することができる。本分析手法は、事例志向の他の分析手法より帰納的であるとされている。本研究では、一つ一つのテキストの深い理解より、テキスト全体の傾向から、心配事の特徴を把握することを目的としていることから、この分析手法を参考とした。以下分析の手順を示す（図1）。

#### 1) テキストを解釈するためのカテゴリの検討（図1-①）

はじめにテキストから、解析の対象となる内容を何にするかを検討し、妊娠期・乳児期・幼児期に、どのような母子の心配事を、栄養担当者が捉えているのかを解釈することとした。次に、テキストを解釈するためのカテゴリを検討した。その際、健康日本21（第一次）栄養・食生活分野の目標設定の検討に用いられた「栄養・食生活と健康、生活の質などの関係について」の枠組みを活用した。この枠組みは、PRECEDE-PROCEEDモデルに基づいており、「生活の質（QOL）」および「栄養状態、栄養

図1 カテゴリの設定からテキストのカテゴリ化に至る分析手順



素（食物）摂取レベル」「知識・態度・行動レベル」「環境レベル」の4段階に分けられている<sup>7)</sup>。本研究のテキスト解釈が、公衆衛生活動における母子保健事業の企画立案に向けた基礎資料となることを狙いとしたことから、これら4つをカテゴリとして設定し、また分類できないテキストを振り分けるため、「その他」のカテゴリを設定した。

2) テキストの分析単位の定義及びテキストの分割と分類 (図1-②)

テキストの分析単位は、分析し得る最少単位のデータで、一つのカテゴリのもとでまとめられる可能性を持つものと定義し、それに基づいてテキストを分割した<sup>6)</sup>。具体的には、ウェブ上のフォームに入力されたテキストを、分析単位ごとに Microsoft Excel<sup>®</sup> のセルに一つずつ入力し、一つの心配事のケースに複数の意味のテキストが入っている場合は、それらを分割し別々のセルに入力した。なお乳幼児期は、一つの市区町村が、健康診査対象月齢ごとに複数心配事を入力する場合がある。同じ意味のテキストが複数得られた場合は、重複するテキストを削除した。さらに、分割したテキストの解釈を進

めるために、前述した5つのカテゴリに分類した。

3) サブカテゴリの構成およびカテゴリの再検討 (図1-③)

その後、5つのカテゴリに分類したテキストを、より高次元の抽象化レベルにまとめ、サブカテゴリとして構成する作業を行った(以下、カテゴリ化)。次にサブカテゴリに、まとめたテキストの意味を代表するサブカテゴリ名をつけた。これらのカテゴリ化は、心配事の特徴を把握するために必要なレベルまで繰り返し行い、本研究においては、結果的に二回カテゴリ化が必要と、分析者間で判断した。その理由は、一回目のカテゴリ化では心配事の内容把握を、二回目では、心配事の内容からその特徴を把握するためである。一回目のカテゴリ化を下位サブカテゴリ、二回目を上位サブカテゴリとした。最後に上位および下位サブカテゴリから、カテゴリの再検討を行った。以後、上位サブカテゴリを【 】、下位サブカテゴリを〈 〉、各カテゴリに分類されたテキスト数を( )で示す。

#### 4) 下位サブカテゴリにおける市区町村数に対するテキストの割合の検討

下位サブカテゴリに示された心配事の内容が、どれだけ多くの地域で抽出されたかを把握するため、妊娠期・乳児期・幼児期各 Form の回答市区町村数を分母とした割合（以下、抽出割合）を示した。

#### 5) 結果の解釈および妥当性の検討

テキストの分割およびカテゴリへの分類、カテゴリ化およびカテゴリの再検討にかかる作業は、地域保健行政の現場に携わる管理栄養士、保育士養成課程の教育機関かつ妊娠期・乳幼児期の食教育に携わる研究者、母子保健事業の政策立案に関わる研究に携わる保健師の3人で行った。分析は、妊娠期、乳児期、幼児期に分かれて行い、それぞれが分析終了後、お互いのデータを交換した。そして分割作業およびカテゴリへの分類、カテゴリ化からカテゴリの再検討に至る各過程において、意見が一致するまで見直した。さらに栄養・食教育の研究者2人によりカテゴリおよび上位および下位サブカテゴリ名の見直しを行った。これらは、栄養担当者が捉えている母子の心配事としてテキストが解釈されているかを基準とし、複数名で見直すことにより、妥当性を検討した。

### III 研究結果

#### 1. 回答市区町村の属性

回答者に、管理栄養士・栄養士が含まれる市区町村の割合は84.2%だった。また母子保健事業の担当者に管理栄養士・栄養士がいる市区町村は90%だった。

#### 2. 栄養担当者の視点による母子の心配事

##### 1) 妊娠期（表1）

Form2 に回答があった981市区町村から得られた総テキスト数は、1,282件だった。テキストが最も多く分類されたカテゴリは、健康・栄養状態（743）であり、テキスト数が多い上位サブカテゴリは、【健康状態（367）】、次いで【体重増加量（303）】であった。抽出割合が高い下位サブカテゴリは、【体重増加量】においては〈体重増加過多（170（17.3%））〉、【健康状態】においては〈貧血への対応・予防（148（15.1%））〉〈つわりへの対応（105（10.7%））〉であった。

##### 2) 乳児期（表2）

Form3 に回答があった980市区町村から得られた総テキスト数は、1,908件だった。テキストが最も多く分類されたカテゴリは、食生活習慣（1,138）であり、テキスト数が多い上位サブカテゴリは、【離乳食の進め方（470）】、【離乳食の食べ方（427）】

であった。抽出割合が高い下位サブカテゴリは、【離乳食の進め方】においては、〈進め方が分からない（297（30.3%））〉、【離乳食の食べ方】においては、〈食べない（186（19%））〉であった。

##### 3) 幼児期（表3）

Form3 に回答があった980市区町村から得られた総テキスト数は、2,127件だった。テキストが最も多く分類されたカテゴリは、食生活習慣（1,704）であり、テキスト数が多い上位サブカテゴリは【食べ方（1,415）】であった。抽出割合が高い下位サブカテゴリは、〈偏食・好き嫌い（419（42.8%））〉、次いで〈小食（212（21.6%））〉〈偏食（野菜）（182（18.6%））〉〈むら食い（178（18.2%））〉〈よく噛まない（154（15.7%））〉〈間食の与え方（147（15%））〉〈遊び食べ（127（13%））〉だった。

## IV 考察

### 1. 妊娠期・乳児期・幼児期における栄養担当者の視点による心配事の特徴

#### 1) 妊娠期

妊娠期の心配事は、健康・栄養状態に分類される【健康状態】、【体重増加量】にテキストが多く抽出され、心配事の特徴として、健康状態、体重増加量が把握された。心配事の内容は、【健康状態】においては〈貧血への対応・予防〉〈つわりへの対応〉、【体重増加量】においては〈体重増加過多〉に、抽出割合が高い結果が得られた。堤らによる、1歳未満の子どもの母親を対象とした妊娠中の食生活の悩みに関する調査においても、妊娠中の食生活において心配だったことに対して、「体重が増えすぎる」、「貧血」、「つわり」の回答割合が高く<sup>4)</sup>、母親が捉えた心配事と栄養担当者の視点による心配事は、類似していると考えられた。妊娠に伴う母体の変化は、健康状態に影響しやすく、心配事も生じやすい。栄養担当者の視点からも妊娠期は、母体の変化に伴う心配事が多いことが明らかになった。

#### 2) 乳児期

乳児期の心配事は、食生活習慣に分類される【離乳食の進め方】および【離乳食の食べ方】に、テキストが多くカテゴリ化され、心配事の特徴として、離乳食の進め方および食べ方が把握された。

心配事の内容では、【離乳食の進め方】において、〈進め方が分からない〉の抽出割合が最も高かった。また【離乳食の食べ方】に関して、〈食べない〉、〈小食〉、〈偏食・好き嫌い〉、〈むら食い〉等複数のカテゴリが生成された。2008年（平成19年）に公表された「授乳・離乳の支援ガイド<sup>5)</sup>」において、離乳期は、乳児の食欲、摂食行動、成長・発達パタン

表1 栄養担当者の視点による妊娠期の心配事

カテゴリ (テキスト数)	上位サブカテゴリ (テキスト数)	下位サブカテゴリ (テキスト数)	% n = 981*		
QOL	(23)	妊娠・出産 (9)	妊娠・出産に対する不安 (9) 0.9		
		育児 (9)	(出産後の) 育児不安 (9) 0.9		
		食生活 (5)	放射性物質の不安 (5) 0.5		
健康・栄養状態	(743)	健康状態 (367)	貧血への対応・予防 (148) 15.1		
			つわりへの対応 (105) 10.7		
			便秘への対応・予防 (53) 5.4		
			妊娠高血圧症候群への対応 (34) 3.5		
			妊娠糖尿病への対応 (14) 1.4		
			むくみへの対応・予防 (11) 1.1		
			母の精神的問題への対応 (2) 0.2		
			体重増加量 (303)	体重増加過多 (170) 17.3	
		体重管理が困難 (67) 6.8			
		体重増加に対する不安 (30) 3.1			
		医療従事者からの指導 (29) 3.0			
		体重増加不良 (7) 0.7			
		妊娠前の体重 (22)	妊娠前のやせへの対応 (12) 1.2		
		妊娠前の肥満への対応 (10) 1.0			
		胎児への影響 (51)	食物アレルギーに対する心配 (44) 4.5		
			胎児に必要な栄養に対する心配 (5) 0.5		
			低出生体重児分娩の心配 (2) 0.2		
		食事内容	(368)	授乳 (3)	母乳に良い食事方法 (3) 0.3
					離乳食 (3)
				食事内容 (69)	食事・栄養バランス (69) 7.0
食品 (40)	副菜摂取不足 (17) 1.7				
	主食摂取不足 (10) 1.0				
	牛乳・乳製品摂取過多・不足 (9) 0.9				
	食品数の偏り (2) 0.2				
果物摂取過多・不足 (2) 0.2					
間食 (18)	嗜好品・菓子類の摂取過多 (13) 1.3				
	嗜好飲料の摂取過多 (5) 0.5				
食事量 (27)	食事の摂取量 (27) 2.8				
妊娠期特有の食事 (208)	妊娠中の食事の取り方 (64) 6.5				
	減塩の方法 (37) 3.8				
	葉酸の摂取方法 (33) 3.4				
	サプリメントの摂取方法 (26) 2.7				
	カフェインに対する心配 (25) 2.5				
	食品中の水銀の心配 (13) 1.3				
	食中毒予防の方法 (6) 0.6				
	ビタミンAの摂取に対する心配 (4) 0.4				
食生活習慣	食事づくり (18)			食事づくりが苦手 (18) 1.8	
		食事・間食のリズム (79)	欠食習慣 (37) 3.8		
	間食の摂り方 (35) 3.6				
	食事・生活リズム (7) 0.7				
	共食方法 (1)	個食 (1) 0.1			
	食習慣 (意識) (18)	食生活に対する不安 (9) 0.9			
		食生活に対する意識が低い (9) 0.9			
	生活習慣 (8)	喫煙 (7) 0.7			
口腔ケア方法 (1) 0.1					
ソーシャルサポート	(11)	家庭・地域の支援 (5)	産後の仲間づくりが必要 (3) 0.3		
			妊娠、産後の支援者がいない (2) 0.2		
		経済的支援 (3)	経済的な心配・不安 (3) 0.3		
		仕事 (3)	妊娠中の仕事の悩み (3) 0.3		
その他	(13)	母の状況 (10)	妊娠中の味覚の変化に対する心配 (6) 0.6		
			高齢出産、若年妊娠 (4) 0.4		
		育児方法 (3)	上の子への対応方法 (3) 0.3		

\* n 数に、Form2 に回答のあった市区町村数を用いた。(自由回答に回答のない市区町村を含む)

表2 栄養担当者の視点による乳児期における母子の心配事

カテゴリ (テキスト数)	上位サブカテゴリ (テキスト数)	下位サブカテゴリ (テキスト数)	% n=980*		
QOL	(13) 育児	育児不安	(2) 0.2		
		話しかけない	(1) 0.1		
		食生活	(9) 0.9		
健康・栄養状態	(318) 健康状態	人間関係ストレス	(1) 0.1		
		食物アレルギーへの対応・予防	(161) 16.4		
健康・栄養状態	(318) 健康状態	便秘への対応・予防	(30) 3.1		
		貧血への対応・予防	(11) 1.1		
		皮膚炎への対応	(2) 0.2		
		発育状態	体重増加不良・やせ	(75) 7.7	
			体重の増え方	(27) 2.8	
			体重増加過多・肥満	(10) 1.0	
		発達状態	(2) 発達	発達の心配	(2) 0.2
				授乳	(5) 0.5
		食事内容	(439) 授乳	フォローアップミルクの使用方法	(5) 0.5
				離乳食の内容	調理形態・固さ
作り方が分からない	(45) 4.6				
月齢に合った食事内容	(34) 3.5				
メニューがマンネリ	(27) 2.8				
味付けが分からない	(23) 2.3				
月齢別食べてよい食品, いけない食品	(6) 0.6				
間食	(36) 3.4				
嗜好飲料の摂取過多	(3) 0.3				
嗜好品・菓子類の摂取過多	(3) 0.3				
食事量	(183) 18.7				
水分	(11) 1.1				
水分補給の仕方	(11) 1.1				
食生活習慣	(1,138) 授乳			回数・量が多い, 少ない	(73) 7.4
				不適切な授乳リズム	(21) 2.1
				卒乳	(20) 2.0
				与え方	(13) 1.3
		哺乳瓶・乳首を嫌がる	(5) 0.5		
		離乳食の進め方	進め方が分からない	(297) 30.3	
			進みが遅い	(126) 12.9	
			母乳・ミルクとのバランス	(34) 3.5	
			進みが早い	(11) 1.1	
			早産児の進め方	(2) 0.2	
		食事づくり	(15) 1.5		
		作るのが面倒・作らない	(15) 1.5		
		食事・間食のリズム	(66) 食事・生活リズム	食事・生活リズム	(39) 4.0
				間食の与え方	(25) 2.6
				間食の祖父母等による影響	(2) 0.2
		離乳食の食べ方	(427) 離乳食の食べ方	食べない	(186) 19.0
				小食	(59) 6.0
偏食・好き嫌い	(57) 5.8				
むら食い	(28) 2.9				
食べ過ぎる	(26) 2.7				
遊び食べ	(20) 2.0				
手づかみ食べ	(3) 0.3				
だらだら食い	(1) 0.1				
ばかり食い	(1) 0.1				
よく噛まない	(39) 4.0				
口から出す	(5) 0.5				
早食い	(2) 0.2				
親の食生活習慣	(14) 親の食生活			親の食事の栄養バランスが悪い	(5) 0.5
				親の食生活に対する意識が低い	(4) 0.4
		親の欠食	(3) 0.3		
		親のダイエット	(2) 0.2		
育児方法	(12) 育児方法	食べさせ方	(8) 0.8		
		離乳食の情報が多	(3) 0.3		
		親が好き嫌いを決めつけている	(1) 0.1		
保育所対策	(2) 保育所対策	哺乳瓶の練習	(1) 0.1		
		給食	(1) 0.1		

\* n 数に, Form3 に回答のあった回答市区町村数を用いた。(自由回答に回答のない市区町村を含む)

表3 栄養担当者の視点による幼児期における母子の心配事

カテゴリ (テキスト数)	上位サブカテゴリ (テキスト数)	下位サブカテゴリ (テキスト数)	% n=980*		
QOL	(1)	育児不安	(1) 0.1		
健康・栄養状態	(174)	健康状態	(70)		
		食物アレルギーへの対応・予防	(35) 3.6		
		便秘への対応・予防	(22) 2.2		
		虫歯予防	(10) 1.0		
		貧血への対応・予防	(3) 0.3		
		発育状態	(95)		
		体重増加過多・肥満	(70) 7.1		
		体重増加不良・やせ	(19) 1.9		
		他の子との体格の違いに対する心配	(6) 0.6		
		発達状態	(9)		
食事内容	(244)	発達心配	(9) 0.9		
		授乳	(1) フォローアップミルクの使用方法 (1) 0.1		
		離乳食	(13) 幼児食への移行 (13) 1.3		
		食事内容	(46) 食事・栄養バランス (37) 3.8		
			朝食内容バランス (9) 0.9		
		食品	(13) 牛乳・乳製品摂取過剰・不足 (12) 1.2		
			魚摂取不足 (1) 0.1		
		間食	(103) 嗜好飲料の摂取過多 (57) 5.8		
			嗜好品・菓子類の摂取過多 (46) 4.7		
		食事量	(67) 食事の摂取量 (67) 6.8		
水分	(1) 水分補給の仕方 (1) 0.1				
食生活習慣	(1,704)	授乳	(37)		
		回数・量が多い	(11) 1.1		
		卒乳	(26) 2.7		
		食事づくり	(12)		
			味付けが分からない	(8) 0.8	
			調理の仕方が分からない	(2) 0.2	
		おてつだい	(1) 0.1		
		食事の環境	(1) 0.1		
		食事・間食のリズム	(213)		
			間食の与え方	(147) 15.0	
			食事・生活リズム	(25) 2.6	
			欠食習慣	(23) 2.3	
			間食の兄弟による影響	(3) 0.3	
		間食の祖父母等による影響	(15) 1.5		
		食べ方	(1,415)	偏食・好き嫌い	(419) 42.8
				偏食(野菜)	(182) 18.6
				偏食(牛乳)	(16) 1.6
				偏食(白いご飯)	(10) 1.0
				小食	(212) 21.6
				むら食い	(178) 18.2
				遊び食べ	(127) 13.0
				食べ過ぎる	(37) 3.8
				食欲がない	(27) 2.8
				座って食べない	(12) 1.2
				ばかり食べ	(11) 1.1
				だらだら食い	(11) 1.1
				自食しない・興味がない	(9) 0.9
				偏食(肉)	(7) 0.7
				食べなくなった	(3) 0.3
		よく噛まない	(154) 15.7		
共食方法	(3) 孤食 (3) 0.3				
親の食生活習慣	(9)	親の食生活に対する意識が低い	(5) 0.5		
		親の食生活に対する不安	(3) 0.3		
		食品に対するこだわり・考え方	(1) 0.1		
育児方法	(7)	母が子どものなすがままの対応	(5) 0.5		
		食べさせ方	(2) 0.2		
マナー・しつけ	(8)	食具の持ち方	(4) 0.4		
		食事マナー	(3) 0.3		
		待つ体験	(1) 0.1		
その他	(4)	母の状況	(1) 0.1		
		複雑な家庭環境	(1) 0.1		
		育児方法	(3) 0.1		
		母以外の家族の対応	(1) 0.1		
指しゃぶり	(1) 0.1				

\* n数に、Form3に回答のあった回答市区町村数を用いた。(自由回答に回答のない市区町村を含む)

あるいは地域の食文化、家庭の食習慣等を考慮し、個々に合わせて進めていくことが重要とされ、画一的な指導とならないことが示されている<sup>9)</sup>。栄養担当者の視点により把握された心配事の内容も、乳児の発育・発達および地域や家庭の食習慣により異なる「離乳食の進め方」や子どもの個性により複数生じる「食べ方」といった、個々に合わせた食生活支援が求められる内容が多くあがった。

### 3) 幼児期

幼児期の心配事は、食生活習慣に分類される【食べ方】に、テキストが多くカテゴリ化され、心配事の特徴として食べ方が把握された。心配事の内容では、【食べ方】において〈偏食・好き嫌い〉、〈小食〉、〈むら食い〉、〈よく噛まない〉、〈遊び食べ〉、また【食事・間食のリズム】において〈間食の与え方〉の下位サブカテゴリの抽出割合が高かった。平成17年度乳幼児栄養調査結果における、1歳以上の子どもをもつ保護者の困り事としても、「偏食する」、「むら食い」、「遊び食べ」、「よく噛まない」、「小食」は、1割以上の回答が得られており<sup>10)</sup>、保護者の視点と類似する結果が得られた。幼児期の「偏食」、「むら食い」、「遊び食べ」は、幼児期における発達の特徴である味覚の発達、自己主張、自我の芽生え等の影響による一過性のものであるとされている<sup>11,12)</sup>。また「小食」は子どもの体格や活動量の差、「よく噛まない」は子どもの咀嚼能力の個人差による違いが影響するとされている<sup>13)</sup>。栄養担当者の視点による幼児期の心配事は、子どもの発達や発育状況により、個人差が生じる内容であることが把握された。一方「間食」については、与え方において「特に気をつけていない」、「時間を決めていない」とする割合が増え、家庭の中での対応の変化がみられることが報告されている<sup>14)</sup>。しかし、保護者の視点から心配事として捉えた報告はない。保護者の間食の食べ方、与え方に対する認識については、今後の検討課題であることが示唆された。

## 2. 市町村の母子保健事業の場で捉えた心配事の特徴

妊娠期・乳児期・幼児期に、共通してカテゴリ化された下位サブカテゴリに、〈育児不安(妊娠期：9、乳児期：2、幼児期：1)〉が抽出された。また妊娠期の上位サブカテゴリにおいては、【家庭・地域の支援(5)】、【経済的支援(3)】、【仕事(3)】、【母の状況(10)】といった、子育て支援や経済的支援等、食生活支援以外の心配事がカテゴリ化されている。これらは少数事例ではあるが、母子保健事業として、食生活に限らず多方面から生活全般の支援を行っている市区町村であるからこそみえてきた心配事

であると考えられる。よって、市区町村の母子保健事業における食生活支援の場が、妊産婦および乳幼児の生活全般の心配事を捉える機会にもなることが示唆された。したがって、このようなケースも見逃さないよう、多職種との連携が母子に対する支援に必要である。

## 3. 本研究の限界

本研究は、市区町村の母子保健事業における、栄養担当者の視点による心配事を対象としている。栄養担当者が捉える心配事には栄養担当者の経験年数や能力による個人差があること、市区町村の栄養担当者が多く関わる妊娠周期の妊婦や、乳幼児期の月齢が影響している可能性が考えられる。また、妊娠期の心配事に記述があった市区町村数は630、乳児期では延べ889、幼児期では延べ1,034であり、回答数に差がみられた。妊娠期の心配事に記述があった市区町村が少なかった理由の一つに、妊婦健康診査事業を契約医療機関に任せているため、行政として困り事を把握しておらず回答不可能である、という声が複数聞かれた。今後、妊娠期の食生活支援における心配事の内容や傾向の検討を行うためには、調査対象機関や職種等の検討が必要になると考えられる。

## V 結 語

全国の市区町村の母子保健事業の栄養担当者を対象に、妊娠期および乳児期、幼児期の母子に対する心配事の実態を調査した。その結果、栄養担当者の視点による各時期の心配事の内容および特徴として、妊娠期では母体の変化に伴う【健康状態および体重増加量】、乳児期では個々に応じた食生活支援が求められる【離乳食の進め方と食べ方】、幼児期では子どもの発育・発達により個人差が生じる【食べ方】および家庭により対応が異なる〈間食の与え方〉が把握された。

なお本研究は、平成24年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究の一環として実施した。

本論文を作成するにあたって調査に御協力頂いた市区町村の母子保健事業担当者様および栄養指導者様に厚くお礼申し上げます。

なお、開示すべきCOI状態はない。

(受付 2015.3.29)  
(採用 2016.7.20)



## 文 献

- 1) 「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会。「健やか親子21 (第2次)」について 検討会報告書. 2014. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041585.html> (2015年8月23日アクセス可能).
- 2) 「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会。「健やか親子21 (第2次)」について 検討会報告書. 2014; 60-71. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041585.html> (2015年8月23日アクセス可能).
- 3) 宮野由紀. 妊娠・授乳期の特徴と栄養教育. 丸山千寿子, 足達淑子, 武見ゆかり, 編. 栄養教育論. 東京: 南江堂. 2005; 197-200.
- 4) 堤ちはる, 高野 陽, 三橋扶佐子. 妊産婦の食生活支援に関する研究(1): 妊娠中および出産後の食生活の現状について. 日本子ども家庭総合研究所紀要 2007; 44: 93-122.
- 5) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課, 編. 平成17年度乳幼児栄養調査報告. 2006; 26.
- 6) ウヴェ・フリック. 新版 質的研究入門: <人間の科学>のための方法論 [Qualitative Sozialforschung] (小田博志, 監訳). 東京: 春秋社. 2011; 393-400.
- 7) 健康日本21企画検討会, 健康日本21計画策定検討会. 健康日本21 (21世紀における国民健康づくり運動について): 健康日本21企画検討会・健康日本21計画策定検討会報告書. 東京: 健康・体力づくり事業財団. 2000; 80.
- 8) 授乳・離乳の支援ガイド策定に関する研究会. 授乳・離乳の支援ガイド. 2007. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0314-17.html> (2015年8月16日アクセス可能).
- 9) 授乳・離乳の支援ガイド策定に関する研究会. 授乳・離乳の支援ガイド. 2007; 40. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0314-17.html> (2015年8月16日アクセス可能).
- 10) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課, 編. 平成17年度乳幼児栄養調査報告. 2006; 16.
- 11) 赤石元子, 酒井治子, 土井正子, 他. 幼児の食事上の問題と対応. 上田玲子, 編. 改訂 子どもの食生活: 保育と小児栄養. 神奈川: ななみ書房. 2008; 111-112.
- 12) 高野 陽, 高橋種昭, 大江秀夫, 他. 小児栄養 子どもの栄養と食生活 (第3版). 東京: 医歯薬出版. 2003; 126-127.
- 13) 高野 陽, 高橋種昭, 大江秀夫, 他. 小児栄養 子どもの栄養と食生活 (第3版). 東京: 医歯薬出版. 2003; 127-128.
- 14) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 楽しく食べる子どもに: 食からはじまる健やかガイド「食を通じた子どもの健全育成 (—いわゆる「食育」の視点から—) のあり方に関する検討会」報告書. 2004; 3-4. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/02/s0219-4.html> (2016年7月23日アクセス可能).